

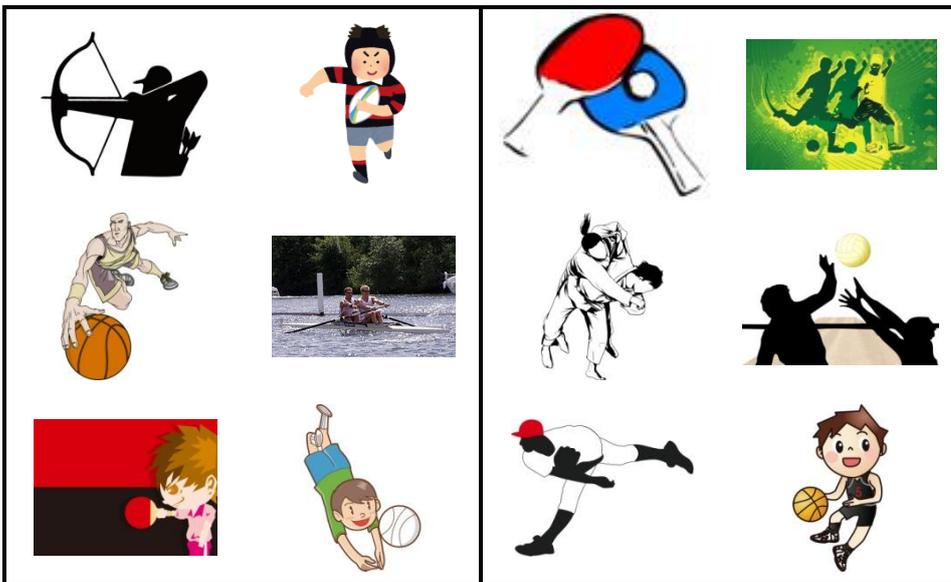
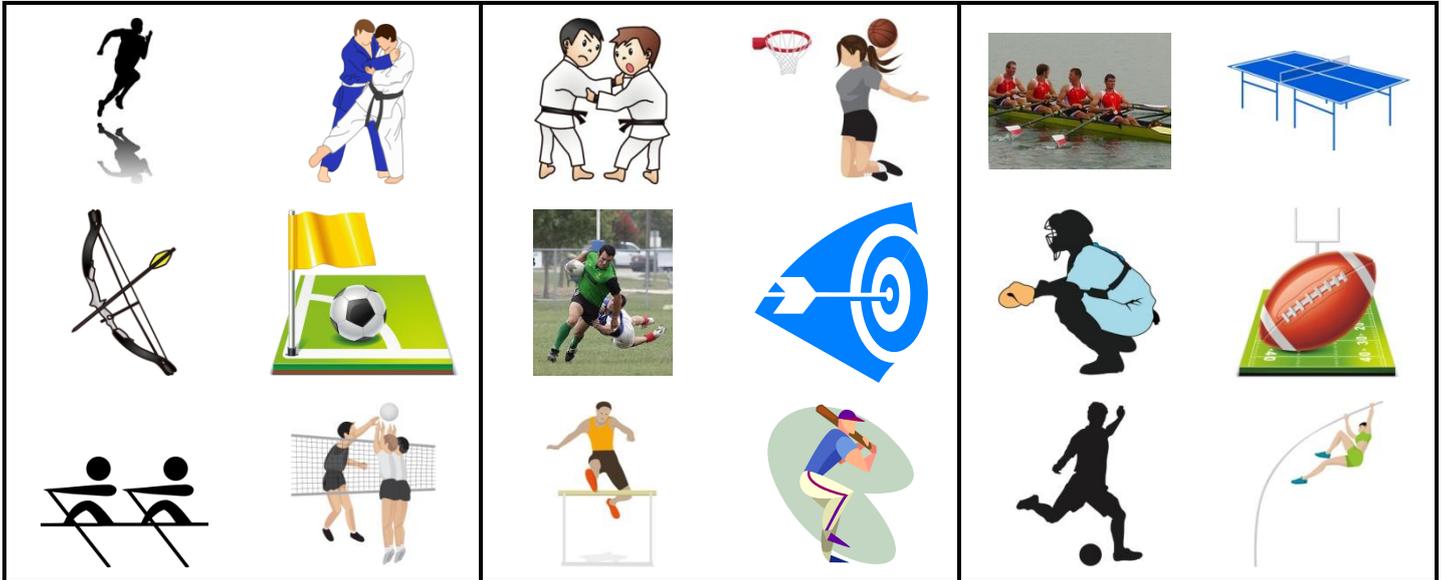
# スポーツは好き？

## 【内容】

心で思ったスポーツをカードを使って当てる。

次の5枚を用意する

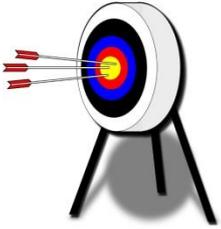
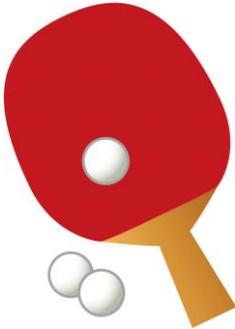
各カードのイラスト（裏は真っ白）



各カードは1つの数字に対応している。カードの左上のイラストに注目する。

	1 人が一人		2 人が二人		4 人が4人
			8 弓の部分が8に見える		16 ラケットとボールの太い部分が16に見える

# スポーツイラストボード

アーチェリー 	サッカー 	柔道 	卓球 	陸上 
バasketボール 	バレーボール 	ラグビー 	ボート競技 	野球 

1つのスポーツに関するイラストが5枚中3枚に描かれている。

描かれているカード以外の2枚の数値を合計すると、次のようになる。

選ばれたスポーツ	他2枚の数値の合計	実際に表す数字	覚え方
アーチェリー	20	0	0から円を連想し、円からの的を連想する
サッカー	10	1	1を11として選手数
柔道	12	2	2人で対戦
卓球	3	3	オリンピックでは1チーム3人
陸上	24	4	リレー人数
バスケットボール	5	5	選手数
バレーボール	6	6	6人制バレー
ラグビー	17	7	7人制ラグビー
ボート	18	8	ボート競技の一種エイトより
野球	9	9	ナイン

実際に表す数字は、基本的には下1けた。10は例外で1を表すこととする(1+0=1)

## 【演技】

テーブルの右側にメモ用紙とペンをおいておく。

「スポーツに興味はありますか。以前やったことがあるとか、これからやってみたいとか、自分ではやらないけど好きだとか、人によって興味の持ち方もいろいろですね」

イラストボードを出す。

「ここにいくつかのスポーツ競技の絵を用意しました」相手に渡す。

「心の中で1つ興味のあるスポーツを決めてもらえますか。決めたら、それは裏返してください」

相手が決めたとしたら、ボードを演者から見てテーブルの左側、若干相手に近い方におく。

5枚のカードを出す。

「ここに5枚のカードがあります」相手にイラストが正しく見えるような方向にして見せる。

「さきほど決めたスポーツに関する絵がこの中の3枚に描かれています。これから後ろを向くので、その3枚を探し、ポケットにしまおうか、テーブルの下で持っていてください。持っている場合は念のため裏向きにしておいてください。残り2枚は重ねて（演者からみてテーブルの右側を示し）このへんにおいてください」

ここで後ろを向く。

「絵を間違えることはないと思いますが、もし迷ったら近くの方と相談したり、先ほどのボードも参考にしてくださいね」などと言う。相手が出来たとしたら前を向く。

「いちおう確認します」と言って残った2枚を手に取り、一瞬カードを自分の方に向けて数値を読み取りすぐに相手の方にイラストが見えるようにして「この中にはあなたが選んだスポーツはありませんね」と聞く。

相手がないと言ったらカードを重ね裏向きにしてテーブル脇におく。

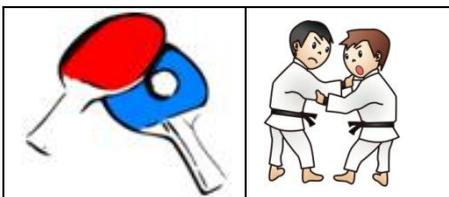
「ではそのスポーツの競技の様子などを思い浮かべてください」

しばらくしたら「何となくわかりました」と言ってメモ用紙とペンをとる。

例えば読み取った左上のイラストが、



ならば、 $1+4=5$ となる。5はラグビーの選手人数なので、相手はラグビーと決めたとわかる。



ならば、 $16+2=18$ となり、8を表す。エイトなので、ボートとわかる。

絵が得意なら、そのスポーツの絵をメモ用紙に書いてもいい。読み取ったスポーツ名を書いてメモ用紙を裏返しにして演者と相手の間におく。

相手に決めたとスポーツ名を言ってもらい、メモ用紙をひっくり返してもらおうと、一致している。

※もしどうしても、計算した数値からスポーツを思い出さなかったら、すでにスポーツ名は書いたふりをして「絵も描いておきたいので、ちょっとこれを参考にしますね」と言ってイラストボードを見るしかない。（スポーツは番号順に並んでいる）。出来るだけ覚えておく。